

平成27年度 国民体育大会（和歌山県開催）少年男女北海道予選会実施要領

北海道ソフトテニス連盟強化委員会

1. 開催日時

ダブルス： 1次予選 8月11日（火）午前8時30分受付終了、9時試合開始
2次予選 8月12日（水）午前8時30分受付終了、9時試合開始
最終予選 8月13日（木）午前8時30分受付終了、9時試合開始
シングルス：1・2次予選 6月20日（土）午前8時30分受付終了、9時試合開始
最終予選 6月21日（日）午前8時30分受付終了、9時試合開始

2. 開催会場 ダブルス：帯広市帯広の森テニスコート

シングルス：長沼町マオイテニスコート

3. 選考方法

(1) ダブルス

「指定シードペア（代表候補選手）」は、地区予選を免除。（各支部割当て枠外とする）
該当するペアの選手変更は一切認めない。ただし、上記権利取得後に地区予選に出場した場合は（ペア変更を含む）は、権利を消滅する。中学3年生の取り扱いは、例年通り道予選会の1次予選（初日）から20ペアに限り出場を認めるものとする。

●1次予選（初日）

・トーナメント戦又はリーグ戦により4ペアを選出する。

●2次予選（2日目）

・上記4ペアと指定シードペア（代表候補選手）8ペアを、A・Bブロック各6ペアに分け、総当りリーグ戦（1回）により、A・Bブロック各上位2ペアを最終リーグに進出させる。

●最終予選（3日目）

・上記4ペア（監督推薦ペアがある場合は5ペア）により、総当り最終リーグ戦（1回）を行い、トータルポイントで上位のペアから順に代表ペアとして内定する。

(2) シングルス

シングルスは、競技者育成プログラムと連動し、参加基準を設けて以下の通り実施する。

●1次予選（初日）

・U17step2該当選手（中学3年生含む）及びU20step2該当選手（高校3年生対象）を対象としてトーナメント戦又はリーグ戦により上位4名を選出する。

●2次予選（初日）

・1次予選上位4名にハイスクールジャパンカップ南北予選上位各2名及び高校部強化委員推薦選手2名を加えた10名を、A・Bブロック各5名に分け、総当りリーグ戦（1回）により、A・Bブロック各上位3名を最終リーグに進出させる。

●最終予選（2日目）

・2次予選上位6名により、総当り最終定リーグ戦（1回）を行い、トータルポイントで上位の者から順位を決定する。

なお、ダブルスの選考を優先とするため、この時点ではシングルの内定候補者として位置づけ、ダブルスの選手選考が確定した後にシングルの代表選手を確定させる。

■注意事項

1. ダブルス及びシングルスで内定となった選手が辞退をする場合は、それぞれの予選会で次点となったペア（ダブルスの場合）又は選手（シングルの場合）を繰り上げて内定とする。
2. 代表となる選手は、監督の指示により、ダブルス、シングルのいずれかにも出場することに承諾しなければならない。（代表選手は、事前に承諾書の提出が必要となる。）
3. ベンチ入り指導者について ①シングルスでは認めない。②ダブルスでは1次予選は認めるが、それ以降のマッチでは認めない。
4. 参加数及び当日の天候等、特別な事情が生じた場合、上記の試合方法を変更することがある。

平成27年度 国民体育大会（和歌山県開催）成年男女北海道予選会実施要領

北海道ソフトテニス連盟強化委員会

1. 開催日時

ダブルス： 1次予選 5月30日（土）午前8時30分受付終了、9時試合開始
最終予選 5月31日（日）午前8時30分受付終了、9時試合開始
シングルス： 1次予選 8月15日（土）午前8時30分受付終了、9時試合開始
最終予選 8月16日（日）午前8時30分受付終了、9時試合開始

2. 開催会場 ダブルス：千歳市青葉公園テニスコート

シングルス：千歳市青葉公園テニスコート

3. 選考方法

（1）ダブルス

●1次予選（初日）

- ・トーナメント戦又はリーグ戦により8ペアを選出する。
- ・上記8ペアを4ペア2ブロックに別けてリーグ戦を行い、各ブロック上位2ペアを最終リーグに進出させる。

●最終予選（2日目）

- ・上記4ペアに「指定シード組」を加えて、総当り最終リーグ戦（1回）を行い、トータルポイントで上位のペアから順に代表ペアとして内定する。
なお、最終リーグに進出するペアが8ペア以上になる場合は、最終リーグを2ブロックに分けて実施し、各ブロックから上位2ペアを選出後、4ペアにて最終代表決定リーグ戦（1回）を行い、上位のペアから順に代表ペアとして内定する。

（2）シングルス

●1次予選（初日）

- ・トーナメント戦又はリーグ戦により8名を選出する。
- ・上記8名を4名2ブロックに別けてリーグ戦を行い、各ブロック上位2名を最終リーグに進出させる。

●最終予選（2日目）

- ・上記4名に「指定シード組」を加えて、総当り最終リーグ戦（1回）を行い、トータルポイントで1位の選手を代表選手として内定する。
なお、最終リーグに進出する選手が8名以上になる場合は、最終リーグを2ブロックに分けて実施し、各ブロックから上位2名を選出後、4名にて最終代表決定リーグ戦（1回）を行い、上位の選手から順に代表選手として内定する。

■注意事項

1. ダブルスの予選で上位2組に入った選手又は内定基準に該当している選手がシングルス予選会に出場する場合は、ペアとしてダブルスの内定（権利）を辞退することとなる。
2. ダブルスの「内定ペア」は、予選会の申込みは不要であるが、ダブルス及びシングルの「指定シードペア又は選手」は、参加申込が必要である。なお、「内定ペア」及び「指定シードペア又は選手」は、1次予選から出場することも可能であるが、その場合は「内定ペア」及び「指定シードペア又は選手」の権利は消滅する。
3. ダブルス及びシングルスで内定となった選手が辞退をする場合は、それぞれの予選会で次点となったペア（ダブルスの場合）又は選手（シングルの場合）を繰り上げて内定とする。
4. 代表となる選手は、監督の指示により、ダブルス、シングルのいずれかにも出場することに承諾しなければならない。
5. 参加数及び当日の天候等、特別な事情が生じた場合、上記の試合方法を変更することがある。

「国民体育大会北海道代表選考規程」

1. 少年男女、成年男女の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の承認を経て、理事会で審議・決定する。
2. 代表選手の選考は、以下に示した基準（注①）に該当したペア（同一ペアに限る）を「国体代表内定ペア（1ペア）」とし、予選会を免除する。
 なお、対象が2ペア（ダブルス）以上となった場合は、国体代表選考委員会で協議した後、道連理事会で最終審議・決定を行う。※少年のシングルスについては、別に定める。
3. 上記2以外の代表選手選考会は、「国体道予選会実施要領」に基づき、大会要項に定めるペア数（シングルスは選手）を選考する。
 なお、最終リーグの順位は「ソフトテニスハンドブック大会運営規則第3章競技大会第10条」により決定する。
4. 代表選手5名の他に補欠選手を各種目1名に限り置くことができるものとする。補欠選手の選考基準は、以下に示す注③の通りとし、強化委員会の承認を得て、道連理事会で審議・決定する。
5. 国体代表選考委員会は、上記により選出された選手のほか、強化委員会から推薦された監督・コーチ・補欠選手の選考について審議する。また、選手（補欠含む）及び監督・コーチに欠員が生じた場合には、速やかに強化委員会と協議し、補充の選考をしなければならない。
6. 上記による選考結果は、国体道予選後の道連理事会で正式に発表する。
7. 監督・コーチ・選手（補欠含む）は種目を問わずに一致団結し、常に北海道代表としての自覚と品位を保ち、競技力の向上に努めなければならない。
 なお、これらに反する行為があった者、または、そのような行為を看過した者は、国体代表選考委員会の審議により、北海道代表の資格を失うことがある。
8. 国体代表選考委員会は、必要に応じて理事長が招集する。なお、委員は次のとおりとするが、審議の際には、会長（代理又は委任可）、副会長（2名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む2名以上）の出席を要す。
 ※委員：会長、副会長、理事長、副理事長

注①：少年男女における「国体代表内定選手」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○当年度全日本高校選手権 上位8ペア ○当年度ハイスクールジャパンカップ上位2ペア	○当年度ハイスクールジャパンカップ上位4名 ○全日本シングルス選手権 上位8名 ただし、ダブルスを優先として代表選手を決定するため、上記に該当する選手は、内定候補として、シングルス予選会を免除し、シングル予選会の1位以上の順位として取り扱う。

注②：成年男女における「国体代表内定選手」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○前年度東・西日本選手権（一般） 上位8ペア ○前年度全日本学生選手権 上位4ペア ○前年度全日本社会人選手権（一般） 上位8ペア ○前年度全日本選手権 上位16ペア	なし

注②：少年男女における「指定シード選手（2次予選）」

ダブルス	シングルス
<p>○代表候補選手 男女各16名 ※北海道高校新人戦、北海道高校インドア大会、北海道高校選手権等及び中学の各種大会結果も考慮し、高校部の推薦に基づき、強化委員会が最終的に承認し、指定シード選手を選出する。 なお、少年男女の監督が予選会の前に確定している場合には、男女ダブルス1ペア、シングルス1名に限り、監督推薦として最終リーグ（特別シード）から出場させることができる。 この場合も強化委員会の承認を必要とする。</p>	<p>○ハイスクールジャパンカップ南北予選会 上位各2名 ○高校部強化委員推薦 2名</p>

注②：成年男女における「指定シード選手（最終予選）」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
<p>○当年度北海道春季選手権（一般） 優勝 ○前年度北海道選手権（一般） 上位2ペア ○前年度東・西日本選手権（一般） 上位16ペア ○前年度全日本学生選手権 上位8ペア ○前年度全日本社会人選手権（一般） 上位16ペア ○前年度全日本選手権（一般） 上位32ペア</p>	<p>○当年度北海道シングルス選手権 上位2名 ○当年度全日本シングルス選手権 上位16名 ○当年度全日本学生シングルス選手権 上位8名</p>

注③：補欠選手の選考基準

少年男女	成年男女
<p>ダブルス及びシングルス予選会における次点選手から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。</p>	<p>ダブルス及びシングルス予選会における次点選手及び当年度の全日本シングルス選手権、北海道春季選手権、北海道選手権、東日本選手権、全日本学生選手権で上位入賞した選手の中から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。</p>

■ 改正内容

○平成12年1月22日理事会：補欠制について

補欠選手を認めず、選手変更を要する非常事態の場合出発前は国体代表選考委員会で、出発後は選手団の総監督に委ねることとした。

○平成14年5月25日理事会：国体代表選考委員会について

委員については、会長、副会長、理事長、副理事長とし、審議の際は、会長（代理含む）、副会長（2名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む2名以上）の出席を要することとした。

○平成18年6月10日理事会：国体代表内定組の取り扱いについて

国体代表内定基準を作り、その対象組が複数生じた場合の取り扱いを明記した。

○平成26年3月1日理事会：監督・コーチの決定について

国体の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の了承を経て、理事会で審議・決定することとした。

○平成27年3月7日理事会：補欠選手の選考及びシングルの導入に伴う変更

シングルの導入に伴い代表選手が5名（ダブルス4名、シングル1名）になることから怪我による選手変更や練習パートナーなどの問題に対応出来るように補欠選手を1名置くことにしたほか、シングルの選考に関わる事項を明記した。